

JC 見聞録

HANDA JUNIOR CHAMBER INC.

2010
APRIL

No. 2

● 基本理念

継続的な市民参画型社会の構築

● 基本方針

市民参画型運動の実践・JCブランディングの確立・共に育む環境づくり
JAYCEEの資質向上・活気あふれる地域未来の創造

● スローガン

貫徹



第62回定時総会に於いて、第46代理事長天木一貴君より第47代理事長伊奈利信君へ、
理事長バッジ、プレジデンシャルリースが授与されました。

Contents

活動報告

- P.02 第63回定時総会
新春賀詞交歓会
- P.03 京都会議
2月例会 今こそ、心をひとつに！湧き上がれ、地域の力～足並みを揃えて～
- P.04 3月例会 あなたが変われば地域も変わる～青年経済人だからできること～
- P.04 TYC メンバー募集中
- P.05 私たちの町 ヘー～！ほお～！～阿久比町・東浦町～
みかんの樹泥棒事件が発生！
- P.06 新入会員募集・6月例会案内

第63回定時総会

1月15日(金)、ブライダルホール白山にて第63回定時総会が開催されました。

2010年度の幕が明け、最初の事業である定時総会がブライダルホール白山にて開催されました。理事長バッジ・直前理事長バッジ授与式が執り行われ、議事では、
第1号議案

2009年度社団法人半田青年会議所事業報告(案)承認の件
第2号議案

2009年度社団法人半田青年会議所決算報告(案)承認の件
第3号議案

2010年度社団法人半田青年会議所事業計画(案)承認の件
第4号議案

2010年度社団法人半田青年会議所補正予算(案)承認の件の4議案が全員賛成可決され、2010年度半田青年会議所「伊奈丸」が「貫徹」の旗を掲げ、大海原へと漕ぎ出しました。

早い時間からの開催にもかかわらず、出席率90.7%と大変多くの正会員の皆様にお集まりいただきました。



また、大変お世話になりました竹内達哉先輩、榊原幸三先輩も、お忙しい中、御参集くださいました。「1人の100歩より、100人の1歩。足並みを揃えて、行こうじゃないか。」半田青年会議所が一丸となり、足並みを揃え、大いなる一歩を踏み出せるように、がんばっていこうと決意することができた総会となったと思います。

新春賀詞交歓会

定時総会終了後、同所にて多くのご来賓・関係諸団体の方々をお招きし、新春賀詞交歓会が開催されました。

平成22年1月15日(金)午後7時30分より、ブライダルホール白山にて「2010年度のスタートにおいて多くのご来賓・関係諸団体の方々をお招きし、共に新年の門出を祝い、常日頃のご支援とご協力に対して感謝の意を表するとともに、本年度の活動方針をお伝えし、ご理解を深めていただくことで、半田青年会議所の活動の活性化につなげる。」という事業目的のもと、新春賀詞交歓会を開催させていただきました。

当日は、公私共に大変ご多忙の中多くのご来賓にお越しいただき、共に新年の門出をお祝いさせていただきました。オープニングセレモニーのアトラクションでは、「第11回につぼんど真ん中祭り」で優勝をするなど素晴らしい成績を残している半田市を中心に活動するよさこいチームのD.D.Mに演舞をしていただき、2010年度の門出を華やかにしていただきました。そして、おもてなしの心を正会員全員で共有し、社団法人半田青年会議所の活動に対する常日頃のご支援とご協力に対して感謝を申し上げ、懇親を深めさせていただきました。また、ご来賓の方々に2010年度の活動方針をお伝えするとともに、新年度役員を紹介させていただき、思いを述べさせていただく中で、今後の社団法人半田青年会議所活動の活性化につなげることができたと思います。



京都会議

1月21日(木)～24日(日)、
国立京都国際会議場および京都市内にて
京都会議が開催されました。

社団法人日本青年会議所 第126回通常総会 京都会議は、日本全国の正会員が一堂に会し、すばらしい活動のスタートを切る場であると同時に、社団法人日本青年会議所の基本理念、基本方針を全国のメンバーに伝える場として、重要な位置付けとなっています。

本年度も社団法人半田青年会議所より多くのメンバーが出向しています。日本の未来選択会議には、議長として出向している石川大介君をはじめ、水谷吉孝君、大橋将太君、石川一佐君、金澤茂明君、坂敬裕君、増田哲也君、会計監査人グループには副代表として竹内眞君、国際アカデミー委員会には、副委員長 天木一貴君をはじめ、今井広樹君、今津悠見君、大橋邦次君、竹内雅樹君が出向しています。

また、石川大介議長担当のセミナーである「マニフェスト型公開討論会・検証大会&市民討議会セミナー」～ぶっとばせ無関心 日本の未来はわたしたちがつくる！～ が開催され、立ち見がでるほどの大盛況でした。



京都の地にて、出向者のみんなが活躍している姿を垣間見て、改めて社団法人半田青年会議所の底力を感じました。

2月例会

今こそ、心をひとつに！ 湧き上がれ、地域の力
～足並みを揃えて～

2月17日(水)、
アイプラザ半田にて、
河合長政委員長率いる協働運動委員会の設営による
2月例会が開催されました。

今例会では、「協働」をテーマに、まちづくりに対するそれぞれの団体の想い、市民の想い、そして行政の想いを認識し合える場を通して、更なるまちづくりの取り組みへつながると考え、設営させていただきました。

第1部では、講師にまちづくりプランナー、コーディネーターの名倉弘二氏をお迎えし、「互いに連携して取り組むまちづくりのあり方」をテーマに講演をいただきました。

第2部では、名倉講師をコーディネーターとして、「協同」をテーマにグループディスカッションを行いました。皆様の貴重な発言の一言一言が、今後の私たちの地域のためになるものでした。私たちも学ぶことができ、地域のために、まちのためにとの気持ちを更に深めることができました。

名倉講師が言われたように、今回のグループディスカッションという「場」は、きっかけづくりにすぎません。



今後、協働運動委員会はこの繋がりを大事に生かすことに力いっぱい活動を志し、行動していきます。

参加者の皆様に感謝いたしますとともに、次の機会にも期待していただきたいと思います。またお声掛けさせていただきますので、宜しくお願いします。

3月例会 「あなたが変われば地域が変わる」 ～青年経済人だからできること～

3月17日(水)、
日本福祉大学半田キャンパスにおいて、
宮地重樹委員長率いる資質向上委員会の設営による
3月例会が開催されました。

3月例会では、自身の企業の存在意義を見つめ直し、
地域や社会との関わり、企業の公器性を重視した経営
を目指し、社会から必要とされる企業づくり、ひとづ
くりを目的として、地域で活躍される青年経済人の皆
様とともに考えました。

年度末の忙しい中、多くの一般参加の皆様にご参加
いただきまして、本当にありがとうございました。

ご参加頂いた皆様には、地域から必要とされる企業

づくり、ひとづくりについて学んで頂けましたでしょ
うか。今例会で学んで頂いたことを、皆様が所属する
企業・組織のあり方、将来地域において果たすべき役
割などについての改善につなげて頂ければ幸いです。

資質向上委員会としては、今後も本例会の成果を、
委員会事業等につなげていきたいと考えておりますの
で、ご期待下さい。



TYCメンバー募集中

TOWN YOUTH CORPS(まちづくり青年隊)
のメンバーを募集中です。



市民参画委員会では、本年度、自分たちのまちは自
分たちの手で良くしていこうという市民の輪を広げて
いくことで明るい豊かなまちを目指し、頑張って活動
しています。

現在、私たちとともに楽しくまちづくりをしてくれ
る若い力を募集しています。

その名もTOWN YOUTH CORPS(TYC)。
直訳すると「まちづくり青年隊」という意味です。

15歳～25歳の半田市、東浦町、阿久比町、美浜町、
南知多町、武豊町に在住、在学、在勤の男女で、楽し
い事が好きな人、まちづくりに企画から携わってみま
せんか。難しい事はありません。このまちってさみし
くない？ 日々の刺激がない？ なんかに出会いが
ない？ そんな事を思っている方はこのチャンスを逃
す手はありません。10月に予定しているまちづくりイ

ベントの企画をして、楽しい時間と空間を一緒ににつくっ
ていきましょう。

Don't think, Feel it! まずはその第一歩から。あ
なたのご参加お待ちしております。



私たちの町 へえ～! ほお～!

第2回 阿久比町・東浦町

今回は、半田青年会議所の活動地域であります1市5町のうち、「阿久比」「東浦」について、その由来を求めて取材に行きまして参りました。

■「阿久比」の由来

「アグイ」です。知らない方にはなかなか正確に読んで頂けない地名の一つですね。

阿久比町役場によりますと、

「藤原京から出土した木簡に「甲午年（西暦694年）9月12日知多評（後に知多郡）阿具比」と書かれたものが今までに知られている最古の資料である。

「その後、平城京の木簡に『英比（あぐい）郷』と書かれたものがあり、これは、和銅6年（西暦713年）の「二字」「嘉名」の令によって改められたものと考えられている。」

「中世には『阿古居』と書いた例もあるが、後世になって、英比谷の十数カ村が合併した時に『阿久比』の字を使うようになった。」などと伝えられているそうです。

が、結局のところ、実は、あまりはっきりした由来は分かっていないというのが実情のようです。

ところで「英比」と言えば、阿久比の「英比（エイビ）小学校」、あの「サマーナイトスクールin英比」の舞台となった小学校名等にも残っております。恥ずかしながらこれを「アグイ」と読んでいたという事実を、筆者はこの年齢になって初めて知りました。

更に、社会教育課に行き資料についてたずねたところ、「あぐいのあゆみ 発行・阿久比町 平成6年11月1日発行」

「阿久比町誌（本文編）

発行阿久比町 平成

5年3月25日発行」

（資料編）1～8

など興味深い資料がありました。

もっと阿久比のことを知るには、1度足を運んでみるのもよろしいかと思います。



▲「サマーナイトスクールin英比」の様子

■「東浦」の由来

次は「東浦」です。東浦といえば、「巨峰」の名産地。「カリモク」の工場の存在、そして今は何と言ってもイオンのイメージが大きいですね。

刈谷へ通じる交通の利便の良さも印象的です。

さて今回は、そんな東浦が「村」から「町」へと変わっていった経緯を紹介いたします。

「東浦」とは元来、知多半島の東海岸全般を指す言葉であったとのこと。

たとえば『知多洵行記』には

「矢梨村／・・・・・・・・・・此村ハ東浦海道トホリニ民屋建ナラビ、村立ヨキ所ナリ・・・・・・・・」等と書かれております。

明治39年、愛知県では大幅な町村合併を実施し、県下663町村が264町村に、知多郡では65町村が28町村に減少しました。

この年、5月1日付で、森岡・緒川・石浜・生路・藤江の五村が合併して、「東浦村」と称するようになりました。この時の戸数が1666戸、人口9061人でした。

それから42年後、昭和23年6月1日、「東浦町」ととなりました。その時の戸数3012戸、人口1万5677人でした。

（「改訂 東浦地名考 発行・愛知県知多郡東浦町教育委員会 東浦町郷土資料館」より）

平成21年3月末日現在では、世帯数1万8838戸、人口5万0077人であり、上記のとおり利便性も手伝ってか人口も増加しているようです。

東浦町について詳しく知りたい方は「うのはな館」（東浦町郷土資料館。電話0562-82-1188、月曜定休）に足を向けてみてはいかがでしょうか。

■さて、次回は半田市の南の方へと訪れてみたいと思います。お楽しみに！



▲改訂 東浦地名考



▲うのはな館

みかんの樹泥棒事件発生！

09年度10月例会「TAKE THE ACTION 知多半島」で植樹した、みかんの樹が盗難被害を受けました。

昨年度、橋場友昭委員長（当時）率いる知多半島のアイデンティティ確立委員会設営の10月例会にて、子どもたちと一緒に美浜の散策路「オレンジライン」で植樹をしたみかんの木が、何者かに盗まれました。

植樹といっても、苗を植えただけであり、実がなるのは当分先の話になります。

合計45本中、29本（3月末現在）が丁寧に根っこから掘り起こされて盗まれておりました。

写真の白い藁のところが掘り起こされた場所ですが、なんとも悲しい事件です。

警察には連絡しましたが、何か情報をお持ちの方は、

些細なことでも結構です。

社団法人半田青年会議所事務局までご一報下さいますと幸甚です。



採られた後…

本当はこんな感じてした

自分のため、自分が暮らすまちのため、
私たちと一緒に活動しませんか！

新入会員募集！

- 多くの仲間と出会え、そして一生の友達ができます！
- 一般社会では体験できない場面に思いっきりチャレンジし、感動体験ができます！
- 様々な自己啓発トレーニング、セミナーを体験することができます！

そんなあなたを
お待ちしております！



社団法人 半田青年会議所概要

創立 1965 年

活動エリア 半田市・阿久比町・東浦町

南知多町・美浜町・武豊町（1市5町）

対象者 原則として、半田市及び知多郡に居住または勤務する
満20歳以上40歳未満の品格ある青年

会員数 75 名（H22 年1月現在）

入会金 ￥50,000

年会費 ￥130,000 ※初年度年会費 ￥60,000

くわしくはホームページで!!

<http://www.handajc.or.jp/>

半田JC

検索

メール会員募集中!

毎月の活動報告やまちの情報などお届けします。
ぜひご登録下さい。

●携帯電話から：右QRコードをご利用下さい。

●パソコンから：半田JCホームページよりメール会員募集ボタンをクリック



6月例会に向けて

平成22年6月27日(日)に『『地域のたから』探し in 武豊』として、6月例会を開催させていただきます。『地域のたから』を地域に今ある資産を有効に活用する方策として、「もの」に限らず、その地域の「人」、「場所」、「特性」、「文化」、「仕組み」、「つながり」と定義づけました。地方分権社会が加速度的に本格化する中、それぞれの地域が特色をもち、高めあうことが必要であり、そのためには、この『地域のたから』を活かし、地域の発展につなげることが重要だと考え、そのきっかけづくりを本事業で行わせていただきます。



編集発行

社団法人半田青年会議所 JC ブランディング委員会
社団法人半田青年会議所広報誌 JC 見聞録

半田市御幸町1番地 知多繊維会館3F TEL 0569-21-7105
2010年4月21日発行（通算432）印刷：有限会社 一粒社